

衛生委員会議事録

2022年8月22日 午後3時30分より、東京都千代田区丸の内1-1-1パレスビル内三菱ケミカル株式会社会議室において、エムシーパートナーズ株式会社の衛生委員会を開催した。
(会議室内は事務局1名のみであり、各委員はオンラインにて出席)

出席者	委員（産業医）	古澤 真美
	同（会社推薦兼事務局）	松村 美奈子
	同（従業員代表）	櫻井 文代
	同（従業員代表推薦）	徳野 幸枝
	同（　　　〃　　　）	高梨 雅恵
	同（会社推薦）	松田 明子
欠席者	委員長（衛生管理者）	村上 浩治

開催にあたり、議長より本日委員長の村上さんが欠席である旨が伝えられた。
委員長は、上記のとおり出席を確認し、衛生委員会を開会する旨を宣し議事に入った。

1. 議長は「労働災害状況」及び「交通災害状況」について、前月はいずれもゼロ災であった旨報告をした。
2. 次に議長は、従業員の前月の労働時間について、別紙「3. 時間外労働状況」に基づき前年同月との対比等説明した。平均・最高ともに昨年同月より減少していた。最高残業時間においても、組織変更等の業務が落ち着いてきた為か、先月よりも時間数が若干減っており、また昨年同月に比べても減少しているとの報告をした。休日労働の最高時間については、毎月同じ方となり、このコロナ禍においての休日出勤は心配である。ただ、今回は特に感染力の強い第7派の影響があるのかは定かではないが、かなり休日労働が減少しており、ホッとしていると述べた。尚、80時間を超える方は今月もいなかったとの報告をした。
3. 次に、古澤委員（産業医）から、災害が迫り、避難が必要な際に妨げとなる心理状態についての講話を頂いた。

議長は、他に意見がないことを確認し、震災が起きた直後は、防災について家族で確認をする事も多かったが、最近あまり考える機会が減ったのでは？と感じている。9月1日の防災の日も近いので、改めて家族で考えてみるのもいいのでは…と述べ、本会を閉会した。

次回は、2022年9月26日（月）15時30分 開催予定
(衛生委員会内で、ストレスチェックの審議を行う予定)

■時間外労働状況					7月
摘 要		当月	前年同月	差異	単位
対象者（パート除く）		76	71	+ 5	人
平均労働日数		18.8	18.5	+ 0.3	日
平均休日労働日数		0.0	0.1	- 0.1	日
平均労働時間(年休除く)		141.9	137.0	+ 5.0	時間
残業時間	平均	7.7	8.9	- 1.2	時間
	最高	41.8	45.3	- 3.5	時間
休日労働時間	平均	0.4	1.0	- 0.7	時間
	最高	14.5	57.5	- 43.0	時間
残業 + 休日労働	平均	8.1	9.9	- 1.9	時間
	最高	41.8	85.8	- 44.0	時間
	80時間超	0	1	- 1	人
※残業及び休日労働はいずれも所定労働時間に対する値					

正常性バイアス ～災害時にカギとなる心理作用～

全ての人に備わっている心の働き。ここでは、災害時に関係する正常性バイアス、同化性バイアス、同調性バイアスについて学びます。

正常性バイアスとは

危険な状況であっても、ちょっとした変化なら「日常のこと」として処理してしまう人間心理の事をいいます。

例えば、建物の非常ベルが鳴っていても、「また、誤報だから大丈夫だろう」と思い込んだり、火災が発生している際に薄い煙であるから「まだ安心だ。そう大きくはならないだろう」と避難せずに、逃げ遅れてしまうというものです。

正常性バイアスとは、異常を正常の範囲内のことと捉えてしまう錯誤、心の安定を保つメカニズムをいいます。

また、正常性バイアスは、以下の2つのバイアスで構成されていると言われています。

(1) 同化性バイアス（異常を背景の中に埋没させてしまう錯誤）

→じわじわと変化する事に対しては、気付きにくい心理状態。

例：津波が迫ってきていたとしても、潮位の変化が緩やかな時には避難をしない。

(2) 同調性バイアス（集団の規範に従ってしまう錯誤）

→集団と異なる行動を取りにくい心理状態。

例：周りの人が逃げていないから、自分も逃げなくても大丈夫だと思う状態。

災害時はマイナスに働く事もある

心の安定を保つために働く「正常性バイアス」が、災害時にはマイナスに働くことがあります。

例えば、危険が迫っていても、危険だと認識せずに逃げ遅れてしまうといった状態です。

このような、私達の中に本来備わっている心理作用について学んでいくことは、災害時に慌てず行動するためには必要な事です。



どう対処すればよいのか

絶対的な解決策はありませんが、効果的な方法について3つご紹介いたします。

(1) 「バイアスが生じる」ということを理解する。

バイアスがかかる事自体は、悪いことではありません。

大切なのは、「自分の認識は無意識のうちにゆがむことがあり、災害時にはそれが命取りになる」ことを自分が理解し、周りの人にも理解してもらうことです。

つまり、災害を最初に認知した時に、「バイアスがかかっているのではないか」と自分自身をチェックするように習慣づけることが大切になります。

(2) 「状況と行動をパッケージ化する」

様々な危機的場面に対して「この状況の時には必ずこうする」という事前行動計画（自分の中での行動計画）を作っておく事が効果的です。

マイタイムラインの作成が一つの例となります。（本テキスト背面参照）

この他にも、地域で作成した「地域おたすけガイド」を活用して、災害時に地域が実際に活動することが出来るのか検証していくことも大切です。

(3) 「機を逃さずに行動する」（例：率先避難者）

時間が経つにつれて、周囲の行動が落ち着いてしまう（一定の空気感が出来てしまう）と、新たに動き出すことが難しくなります。2つ目の「行動のパッケージ化」を実行するためにも、機を失うことなく行動し、場の主導権を取ることが必要です。

（参考：木村玲欧『災害・防災の心理学』教訓を未来につなぐ防災教育の最前線より）

正常性バイアスが良い方向に働いた一例

●釜石の奇跡（出来事）

2011年3月東日本大震災の際、釜石東中学校と鶴住居（うのすまい）小学校の生徒たちが率先して避難行動をとったことで、周辺の住民にも避難行動を促したという事例がありました。

率先して行動することで、周囲の人々にバイアスが働き、行動を促す事もあります。



（出典：いわて震災津波アーカイブ/提供者：岩手県総務部総合防災室）